

関西支所

関西支所研究調整官 河室 公康

関西支所の研究体制は、森林生態、森林環境、生物多様性、生物被害及び森林資源管理の五つの研究グループとランドスケープ保全、大気－森林系及び野生鳥獣類管理の三つの研究担当チーム長からなっています。支所全体で対応する重要研究課題は「里山・山村が有する多様な機能の解明と評価」で、「里山の公益的機能及び生産機能の自然的・社会的評価に基づく保全・管理手法の開発」と「保健・文化・教育機能の評価と活用手法の開発」の二つの研究項目にまたがる5の課題を担当します。

森林生態研究グループでは、里山を中心とした森林の構造と動態、樹木の遺伝的構造と多様性、及びスギ・ヒノキ人工林の保育技術について研究を行います。森林環境研究グループでは、里山の水土保全、二酸化炭素の吸収と放出、大気汚染と酸性雨などの森林への影響及び山火事に関する調査研究を行います。生物多様性研究グループでは、里山や原生林にすむ動物や昆虫の種類と数を調べ、生物間の相互関係から生物多様性の維持向上のための技術開発を目指します。生物被害研究グループでは、昆虫や森林微生物による里山などの森林被害を軽減し、回避する技術開発に関する研究を行います。森林資源管理研究グループでは、里山や都市近郊林の新しい資源管理の仕組みや利用システムの開発に関する研究を行います。

ランドスケープ保全チーム長は、近年社会的に注目を集めている里山をとりまくランドスケープ（写真の景観で示されるような集落、水田、森林からなる視覚的に一体となった地域のまとまり）の構造や動態、変容過程について生物学的、社会学的保全に関する研究を担当します。

大気－森林系チーム長は、森林の気象緩和機能にかかわる熱エネルギー、水、二酸化炭素など森林と大気間の物質の移動メカニズム解明を担当します。野生鳥獣類管理チーム長は、近年森林や農林業に被害をもたらすようになった野生鳥獣類について、適正に保護管理していくための方法を研究します。

この他、関係府県の研究機関、大学とも連携し、地域の森林・林業をめぐる諸問題に迅速に対応できる研究展開を図ります。



写真. 集落を取り囲む里山（京都府）